

# 生物化学的測定研究会 第18回学術集会プログラム

## 「先端センシング技術を活かす次世代バイオ分析」

昨年の学術シンポジウムでも討論されたように、イムノアッセイをはじめとする生物化学的測定（バイオ分析）は、自動化、ハイスループット化、微量化を指向して今後ますます発展するものと思われる。表面プラズモン共鳴センサー、フローサイトメトリー、蛍光 DNA シーケンサーなど、生化学・分子生物学研究に必須の手法として定着している機器分析は、ハイテクバイオ分析のよい手本と言える。こうした技術の開発には、分光学、電子工学、オートメーション工学、メカトロニクス、材料工学など、理工学領域の知識と技術が必須である。本学術集会では、これらの基盤に立脚した先端のセンシング（標的分子の認識と検出）に携わる4名の講師をお招きし、ご講演を拝聴する。次世代バイオ分析を展望するよい契機になるようなら幸いである。

■ 期日：2013年(平成25年)6月7日(金)

■ 場所：キャンパスプラザ京都(第4講義室)(京都市下京区西洞院通塩小路下る)

■ プログラム

総会(13:00~13:20)

開会の挨拶(13:25) 学術集会長 高木 陽子(京都電子工業株式会社・主任研究員)

### 【一般講演】

座長 有菌 幸司(熊本県立大学環境共生学部・教授)

1. カドミウムイオンに対する酵素免疫測定法の開発およびその特性(13:30~13:45)

大阪教育大学自然研究講座 片桐 昌直、田中 有加、永井 智子、高 非

2. 試験管内親和性成熟 scFv を用いるヒト尿中コチニンの ELISA(13:45~14:00)

神戸薬科大学 大山 浩之、森田 いずみ、太田 光熙、小林 典裕

### 【学術集会】

座長(前半) 高木 陽子(京都電子工業株式会社・主任研究員)

1. Biacore から得られる様々な情報と生物化学的測定における応用例の進展(14:00~14:45)

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社ライフサイエンス統括本部・課長 三谷 知也

2. 磁気検出法を用いた高速・高感度な免疫検査システム(14:45~15:30)

長崎国際大学薬学部・准教授 隈 博幸

休憩(15:30~15:45)

座長(後半) 小林 典裕(神戸薬科大学・教授)

3. セルソーターの開発とハイスループット・フローサイトメトリー技術について(15:45~16:30)

ベイバイオサイエンス株式会社・取締役開発部長 神田 昌彦

4. マイクロ・ナノ電極デバイスを用いたバイオセンシング(16:30~17:15)

東北大学原子分子材料科学高等研究機構・教授 末永 智一

総合討論・総括(17:15~17:45) 高木 陽子(京都電子工業株式会社・主任研究員)

小林 典裕(神戸薬科大学・教授)

情報交換会(18:00~20:00)

**参加申込 :**

- (1) FAX での申し込み  
下記必要事項を記入して事務局へ FAX 送付 (03-5689-1211)
- (2) E-mail での申し込み  
下記必要事項を記入して事務局へ E-mail 送付 ([bas.j@scas.co.jp](mailto:bas.j@scas.co.jp))
- (3) 申込時の必要事項 (記載例)

生物化学的測定研究会第18回学術集会の参加を申し込みます。

会員種別 : 会員 (個人・法人)、非会員

交流会参加 : 参加、不参加

氏名 :

勤務先 :

郵便番号 :

住所 :

TEL :

FAX :

E-mail :

\* 参加費は当日受付でお支払い下さい

**アクセス :** JR 京都駅中央口より徒歩 5 分

(キャンパスプラザ京都 (第 4 講義室)、京都市下京区西洞院通塩小路下る)

**問合せ :** 生物化学的測定研究会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目 22 番 5 号

株式会社住化分析センター内

生物化学的測定研究会事務局 (山田)

TEL : 03-5689-1216 FAX : 03-5689-1221

E-mail : [bas.j@scas.co.jp](mailto:bas.j@scas.co.jp)

以上